フルミスト接種のご案内

患者さん・保護者の方へ｜接種前にお読みください

フルミストは、病原性を弱めたインフルエンザウイルスを鼻の中に噴霧する**生ワクチン**です。安全に接種を受けていただくため、以下をご確認ください。

対象：2歳以上19歳未満（2〜18歳）
接種量・回数：**0.2mLを1回**（左右の鼻の中に各0.1mLずつ噴霧）

接種できない方（接種不適当者）

・明らかな発熱がある方、重い急性の病気にかかっている方

・フルミストの成分でアナフィラキシーを起こしたことがある方

・明らかに免疫機能に異常のある病気がある方、免疫を抑える治療を受けている方（薬については2ページ）

・妊娠していることが明らかな方

・その他、医師が予防接種に適さない状態と判断した方

※2歳未満・19歳以上の方は、フルミストの接種対象外です。

接種前に、必ず医師へご相談いただきたい方

・**重度の喘息がある方、ゼーゼー・ヒューヒューする症状（喘鳴）がある方。**日本小児科学会は、喘息のあるお子さんには注射の不活化ワクチンを推奨しています。

・心臓・腎臓・肝臓・血液などの病気、発育の問題がある方。免疫不全と診断されたことがある方や、近親者に先天性免疫不全症の方がいる場合

・卵・鶏肉などの鶏由来成分やゼラチンにアレルギーがある方。過去の予防接種で2日以内の発熱や全身の発疹が出た方、けいれんの経験がある方

・**ギラン・バレー症候群にかかったことがある方：**既往だけで一律に接種不可ではありません。経過を確認して医師が判断します。

・**授乳中の方：**一律に接種不可ではありませんが、日本小児科学会は不活化ワクチンを推奨しています。フルミストを選ぶ場合は、授乳の継続・中止と接種後1〜2週間の乳児との接触を可能な限り控える対応について、医師と相談してください。

・妊娠の可能性がある方・妊娠を予定している方。接種する場合は、接種前約1か月と接種後約2か月の避妊が必要です。

強い鼻づまりや体調不良、同居家族の免疫不全についてもお伝えください。

フルミスト接種のご案内

使用中・最近使用したお薬を確認します｜お薬手帳をご持参ください

併用禁忌・併用注意の薬剤

生ワクチンのため、免疫を抑える薬や抗インフルエンザ薬などとの組み合わせに注意が必要です。**接種のために、自己判断で薬を中止しないでください。**

併用禁忌（併用できない薬）

● **全身性ステロイド：飲み薬・注射薬**
例：プレドニゾロンなど

● **免疫抑制剤：飲み薬・注射薬**
例：シクロスポリン（サンディミュン、ネオーラル）、タクロリムス（プログラフ）、アザチオプリン（イムラン）など

ワクチンウイルスによる感染が強まったり長引いたりして、インフルエンザのような症状が出るおそれがあります。特に長期・大量投与中の方や、**投与中止後6か月以内の方**は免疫機能が抑えられている可能性があるため、必ず申告してください。

吸入薬・点鼻薬・塗り薬は、上記の飲み薬・注射薬と一律に扱いません。JAK阻害薬や生物学的製剤を含め、**薬の名前・使い方・使用期間**を医師が確認します。

免疫を抑える薬を使用する主な病気（例）

病気・治療	主な例
臓器移植後	腎臓・肝臓・心臓・肺の移植後
自己免疫疾患・膠原病	関節リウマチ、全身性エリテマトーデス（SLE）、皮膚筋炎、血管炎など
血液疾患	再生不良性貧血、免疫性血小板減少症（ITP）など
炎症性腸疾患	潰瘍性大腸炎、クローン病
皮膚疾患	アトピー性皮膚炎、乾癬
呼吸器・神経・腎疾患	重症喘息、サルコイドーシス、多発性硬化症、重症筋無力症、ネフローゼ症候群、IgA腎症など

※病名だけで接種できないと決まるわけではありません。病状と治療内容を確認します。

※日本小児科学会は、無脾症、ミトコンドリア脳筋症、ゼラチンアレルギー、脳や脊髄を守る構造の損傷などがある方には、不活化ワクチンのみを推奨しています。該当する方は医師にお伝えください。

併用注意：アスピリンなどの薬

アスピリンなどのサリチル酸系医薬品、ジクロフェナク、メフェナム酸は**併用注意**です。ライ症候群（脳や肝臓に障害を起こす重い病気）などが問題となるため、使用中・使用予定の場合は必ず相談してください。

フルミスト接種のご案内

お薬の注意の続き｜接種後の過ごし方・副反応

併用注意：抗インフルエンザ薬

オセルタミビル（タミフル）、ザナミビル（リレンザ）、ラニナミビル（イナビル）、バロキサビル（ゾフルーザ）などは、ワクチンウイルスの増殖を抑え、**フルミストの効果が得られないおそれがあります。**

国内添付文書では併用注意です。一律の使用禁止期間は設けず、薬の種類と使用時期に応じて医師が判断します。接種の前後に治療が必要になった場合は、**フルミストの接種日**を伝えてください。

その他の注意点

・接種当日は激しい運動を避け、その後も体調の変化に注意してください。

・**接種後1～2週間は、重度の免疫不全の方との密接な接触を可能な限り避けてください。**ワクチンウイルスが飛沫や接触でうつる可能性があります。身近に免疫不全の方がいる場合、日本小児科学会は不活化ワクチンを推奨しています。

・接種後は鼻からワクチンウイルスが排出されることがあり、**4週間以内は残存している可能性**があります。接種後一定期間は、ワクチン由来のウイルスで**インフルエンザ迅速検査が陽性**になる可能性があります。受診時に接種日を伝えてください。

接種後の主な副反応

国内第III相試験でフルミストを接種した608人の主な副反応です。複数の症状が出た人も含みます。

症状	発現頻度（人数）
鼻づまり・鼻水（鼻閉・鼻漏）	59.2%（360 / 608人）
咳	27.8%（169 / 608人）
口・のどの痛み（口腔咽頭痛）	17.9%（109 / 608人）
頭痛	11.2%（68 / 608人）

発熱、食欲低下、下痢、腹痛、疲れやすさ、筋肉痛なども報告されています。重大な副反応として、ショック・アナフィラキシーがあります（頻度不明）。海外ではギラン・バレー症候群などの神経系障害も報告されていますが、確かな発生頻度は示されていません。

息苦しさ、顔やのどの腫れ、意識の異常などは、すぐに救急受診を（緊急時は119）。高熱や強い咳など、気になる症状があれば速やかに医師へ相談してください。

出典（資料名をクリックすると開きます）
① PMDA：フルミスト点鼻液 添付文書（2026年8月改訂・第6版）
② 日本小児科学会：経鼻弱毒生インフルエンザワクチンの使用に関する考え方（2024年9月2日）